

令和元年度 学校自己評価表（実施段階）

学校番号

特1

福岡県立築城特別支援学校 印

| 学校運営方針 | | 学 校 運 営 計 画（4月） | | 評価(総合) | | |
|---|--|--|--|---|--|--|
| 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導をとおして、個々に育成すべき資質・能力をバランスよく伸ばすとともに、健康な心と体を育む。あわせて障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服する力を育て、将来の自立と社会参加に向かって生きる児童生徒を育成する。 | | 具 体 的 目 標 | | | | |
| 一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行うために、OJTにより、特別支援教育に関する専門性を高めた。また、保護者や関係機関との連携に重点を置き連携作りにも努めた。教員の専門性の更なる向上と、安全安心な学校の確立が課題である。 | 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実 | ・自己研鑽、校内研究・研修等により専門性を高め、より質の高い授業実践を目指す。/・個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づくきめ細かな指導を行う。/・児童生徒の進路実現に向け、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。/・個々の指導に関する情報共有の深化を図り、一貫性のある指導の継続に努める。/・鍛ほめ福岡メソッド(少し困難な目標の設定、必要最小限の支援、達成感を高める賞賛、強化)を推進する。 | ・危機管理マニュアルや緊急対応マニュアルに基づく訓練を継続し、対応の理解を深める。/・ヒヤリハット事例の集積、情報共有を行い、危機管理意識を高く保ち、事故等の未然防止に努める。/・医療機関との連携、定期的な委員会の実施等をおとして、安全な医療的ケアを実施する。/・共感的な生徒指導に努め、日常の観察や継続的な指導、家庭との連携等をおとして、いじめや非行等の問題行動の未然防止に努める。 | ・保護者の意見を尊重し受け止め、また指導等に関する説明責任を果たして相互の理解を深める。/・医療、福祉、労働機関との関係を深め、児童生徒を中心においた連携の強化を図る。/・地域の特別支援教育の充実に向けた相対支援事業やセミナー等を開催する。/・近隣校、居住地域との交流及び共同学習を推進する。あわせて地域との交流、地域での活動の充実を図る。/・HP等で本校の教育活動等について積極的に情報発信する。 | A | |
| 児童生徒が安全に、安心して学ぶことができる教育環境の整備 | ・保護者や地域から信頼される開かれた学校づくり | ・保護者の意見等を尊重し受け止め、また指導等に関する説明責任を果たして相互の理解を深める。/・医療、福祉、労働機関との関係を深め、児童生徒を中心においた連携の強化を図る。/・地域の特別支援教育の充実に向けた相対支援事業やセミナー等を開催する。/・近隣校、居住地域との交流及び共同学習を推進する。あわせて地域との交流、地域での活動の充実を図る。/・HP等で本校の教育活動等について積極的に情報発信する。 | | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 | | |
| 教育運営部 | ・障害の特性や課題に応じた教育課程の編成と効果的な教育活動の推進 ・部門・学部・学年の特性に応じた行事の実施、見直し・改善 ・教育支援計画、指導計画に係るシステムと運用の改善 | ・新学習指導要領改訂のポイントの周知と共通理解を図り、児童生徒の障がいの特性や課題に応じて教育課程編成を行い、カリキュラム・マネジメントを推進する。 ・反省をもとに従来の学校行事の組織・運営の見直し・改善を図り、OJTの視点を生かした業務分担を行なう。 ・教育支援計画、個別の指導計画等、各種計画の意義について発信し、職員の情報能力の向上につなげるように努める。 | B A A | B B | ・教科横断的な視点で年間指導計画を見直し、様式等の検討を進め、教育課程の編成を行う。また、授業改善を通じて、授業の充実を図る。 ・相手校等と事後の反省を行い、目標や内容について検討、共通理解をして次年度に生かす。 ・各種計画の意義やスケジュールについて、全職員への周知を図るとともに、引き続き意識を高めていくようにする。 ・校内での個人情報保護規定を改正する。校内研修や日々の注意喚起により、情報モラルの向上に努める。 ・新たに導入された機器や私物PCなどの活用事例を使用者から報告してもらいICT教育を広げる。 ・ホームページのトップ画面を含めて全体の構成を改善していく。 | |
| | ・個人情報保護体制の強化 ・職員の情報能力の向上 ・HPの充実とネットワーク・機器環境の整備 | ・校務用パソコンの安全かつ適切な運用を図り、個人情報保護に努める。 ・通信や研修会などを通して職員の情報能力向上を目指す。 ・学校ホームページの充実を図るとともに、ネットワーク環境および機器環境を整備・管理し、機器類の安定した動作を保つ。 | ・校務用パソコンの安全かつ適切な運用を図り、個人情報保護に努める。 ・通信や研修会などを通して職員の情報能力向上を目指す。 ・委員会活動等の集団活動において、共感的な指導や言語環境の整備に努める。 ・危機管理マニュアルの周知徹底と定期的な見直しを行い、事件・事故の未然防止に努める。 ・保護者、添乗員、バス会社、施設職員等と情報共有を行い、安全な登下校の確保に努める。 | B B B | B B | ・全校集会以委員会からの発表に加えて、校内全体で行えるような内容を考え実施していく。 ・地域の問題行動を把握するため、警察署やスクールサポーターと情報共有を実施していく。 ・危機管理マニュアルを、より見やすく分かりやすいものに改良していく。 ・送迎時の保護者が普段と違う場合の確認方法を検討していく。 ・各学部の気になる児童生徒の状況を共有し、保健室からも出来る支援をしていく。 ・医療的ケアを安全かつ円滑にケアが開始できるように、手続きの見直しや体制整備を行っていく。 ・食に関する情報発信は、栄養黑板や掲示板等いろいろなツールを活用していく。 |
| | ・つきっきりとしての自覚、責任、誇りの育成 ・危機管理マニュアルの定期的な更新と訓練の充実 ・安全な登下校の確保 | ・委員会活動等の集団活動において、共感的な指導や言語環境の整備に努める。 ・危機管理マニュアルの周知徹底と定期的な見直しを行い、事件・事故の未然防止に努める。 ・保護者、添乗員、バス会社、施設職員等と情報共有を行い、安全な登下校の確保に努める。 | ・委員会活動等の集団活動において、共感的な指導や言語環境の整備に努める。 ・危機管理マニュアルの周知徹底と定期的な見直しを行い、事件・事故の未然防止に努める。 ・保護者、添乗員、バス会社、施設職員等と情報共有を行い、安全な登下校の確保に努める。 | A A A | A A | ・全校集会以委員会からの発表に加えて、校内全体で行えるような内容を考え実施していく。 ・地域の問題行動を把握するため、警察署やスクールサポーターと情報共有を実施していく。 ・危機管理マニュアルを、より見やすく分かりやすいものに改良していく。 ・送迎時の保護者が普段と違う場合の確認方法を検討していく。 ・各学部の気になる児童生徒の状況を共有し、保健室からも出来る支援をしていく。 ・医療的ケアを安全かつ円滑にケアが開始できるように、手続きの見直しや体制整備を行っていく。 ・食に関する情報発信は、栄養黑板や掲示板等いろいろなツールを活用していく。 |
| | ・健康管理と緊急時対応の充実 ・健康で安全な教育活動の実施 ・食に関する指導の充実 | ・保護者や担任、医療機関と連携し、児童生徒の健康管理の充実を努める。 ・医療的ケアの共通理解と、児童生徒の健康上の課題の共有化に努める。 ・保健給食委員会を活用し、計画的な授業の実施と内容の改善に努める。 | ・保護者や担任、医療機関と連携し、児童生徒の健康管理の充実を努める。 ・医療的ケアの共通理解と、児童生徒の健康上の課題の共有化に努める。 ・保健給食委員会を活用し、計画的な授業の実施と内容の改善に努める。 | A A A | A A | ・全校集会以委員会からの発表に加えて、校内全体で行えるような内容を考え実施していく。 ・地域の問題行動を把握するため、警察署やスクールサポーターと情報共有を実施していく。 ・危機管理マニュアルを、より見やすく分かりやすいものに改良していく。 ・送迎時の保護者が普段と違う場合の確認方法を検討していく。 ・各学部の気になる児童生徒の状況を共有し、保健室からも出来る支援をしていく。 ・医療的ケアを安全かつ円滑にケアが開始できるように、手続きの見直しや体制整備を行っていく。 ・食に関する情報発信は、栄養黑板や掲示板等いろいろなツールを活用していく。 |
| 支援連携部 | ・分かりやすい進路指導システムの構築 ・小・中・高等学校の系統つなぎキャリア教育の充実 ・卒業支援の充実 ・ニーズに合った積極的な情報提供 | ・進路指導課の組織的な運営を行い、各学部と連携の取れた分かりやすい進路指導システムの構築を目指す。 ・各発達段階に応じた、系統性のあるキャリア教育の充実(卒業支援も含む)に努める。 ・保護者・各学部・各部門のニーズに合った進路情報の提供に努める。 | A B | A | ・小、中、高の系統性や、知、肢の連携を深く収集した情報の有効活用・最新情報の定期的な更新をする。 ・職員、保護者のニーズに応じた研修会や卒業後を意識した各発達段階における学習づくりを行う。 ・実習前に全職員で実習での作業内容の共通理解と事故発生時の緊急マニュアルの内容確認をする。 ・校内研修を通して、教師間で情報の共有をし、正しい進路情報を保護者に提供する。 ・PTA役員や関係する課と連携を図り、各行事が円滑に行われるように協力する。 ・同窓生が安全に行事へ参加できるように、同窓生やその保護者を対象とした学習会を設定する。 ・安全で効果的な介護等体験ができるように、大学への連絡を密に行う。 ・校舎増築に伴う駐車確保のため、近隣施設の借用や管理を計画的に実施する。 | |
| | ・PTA、同窓会活動の運営支援 ・地域、関係機関、ボランティア等との連携 ・職場環境の整備・充実 | ・PTA、同窓会との連絡調整を密に行い、その円滑な運営を支援する。 ・地域、関係機関、ボランティア等との連携協力を図り、学校教育活動の活性化を推進する。 ・職員間で情報を共有し、職場環境改善への意識を高める。 | ・PTA、同窓会との連絡調整を密に行い、その円滑な運営を支援する。 ・地域、関係機関、ボランティア等との連携協力を図り、学校教育活動の活性化を推進する。 ・職員間で情報を共有し、職場環境改善への意識を高める。 | A A A | A A | ・今年度同様に研修時間の確保や進捗状況等の共有等を行い、校内研究が円滑に行えるようにする。 ・キャリアステージ別や部門別研修会、理論研究推進のための書籍紹介等を充実させ専門性向上を図る。 ・授業方向性を図るために、研究授業後に協議会等で協議の柱を立てるとともに、管理職等の指導助言を受けられる場を設定する。 ・教員の専門性向上のために、ニーズを見定めるとともに、研修の形態や内容を精選する。 ・保護者や教員に地域資源の情報提供をすることはできたが、年々増加する施設の数に対応するため、情報提供の様式を検討する。 ・人権教育に係る授業実践を年間指導計画に明記し、年間を通し計画的な指導を意識できるようにする。 |
| | ・全職員共通理解に基づいた学校研究の推進 ・教職員一人一人の適正な能力に応じた資質能力及び、専門性の向上 | ・校内研究を円滑に行うために、研修体制作りや研修時間の確保を行う。課内では進捗状況等を共有し、共同歩調を取る。 ・年10回以上の校内研修を実施し、教員のキャリアステージに応じた教員の資質向上を図る。 ・研究授業後の協議会や授業評価表で授業の振り返りを行い、授業改善や指導技術の向上、教材教具の工夫等を図る。 | ・校内研究を円滑に行うために、研修体制作りや研修時間の確保を行う。課内では進捗状況等を共有し、共同歩調を取る。 ・年10回以上の校内研修を実施し、教員のキャリアステージに応じた教員の資質向上を図る。 ・研究授業後の協議会や授業評価表で授業の振り返りを行い、授業改善や指導技術の向上、教材教具の工夫等を図る。 | A A B | A | ・今年度同様に研修時間の確保や進捗状況等の共有等を行い、校内研究が円滑に行えるようにする。 ・キャリアステージ別や部門別研修会、理論研究推進のための書籍紹介等を充実させ専門性向上を図る。 ・授業方向性を図るために、研究授業後に協議会等で協議の柱を立てるとともに、管理職等の指導助言を受けられる場を設定する。 ・教員の専門性向上のために、ニーズを見定めるとともに、研修の形態や内容を精選する。 ・保護者や教員に地域資源の情報提供をすることはできたが、年々増加する施設の数に対応するため、情報提供の様式を検討する。 ・人権教育に係る授業実践を年間指導計画に明記し、年間を通し計画的な指導を意識できるようにする。 |
| | ・地域の発達小中高への支援の充実 ・関係機関と連携した情報収集と発信 ・人権に関する知識の理解の促進と人権感覚の育成 | ・セミナー等のアンケートを見直し、ニーズに応じた情報提供や研修会の在り方を提供する。 ・他課と連携し、研修会や掲示等をおとして特別支援教育や地域資源に関する情報を提供する。 ・研修会の案内や、人権学習に関する本校の取組を職員全体に提供することで、人権教育の充実を図る。 | ・セミナー等のアンケートを見直し、ニーズに応じた情報提供や研修会の在り方を提供する。 ・他課と連携し、研修会や掲示等をおとして特別支援教育や地域資源に関する情報を提供する。 ・研修会の案内や、人権学習に関する本校の取組を職員全体に提供することで、人権教育の充実を図る。 | A A B | A A | ・今年度同様に研修時間の確保や進捗状況等の共有等を行い、校内研究が円滑に行えるようにする。 ・キャリアステージ別や部門別研修会、理論研究推進のための書籍紹介等を充実させ専門性向上を図る。 ・授業方向性を図るために、研究授業後に協議会等で協議の柱を立てるとともに、管理職等の指導助言を受けられる場を設定する。 ・教員の専門性向上のために、ニーズを見定めるとともに、研修の形態や内容を精選する。 ・保護者や教員に地域資源の情報提供をすることはできたが、年々増加する施設の数に対応するため、情報提供の様式を検討する。 ・人権教育に係る授業実践を年間指導計画に明記し、年間を通し計画的な指導を意識できるようにする。 |
| 知的障がい教育部門 | ・新学習指導要領に関する理解を深める研修の実施と、個別の教育支援計画、指導計画に基づいたきめ細かな指導の充実 ・発達段階に応じた、進路実現や将来の社会参加に必要な日常生活の力の育成 ・「鍛ほめ福岡メソッド」の視点を取り入れた授業づくり | 小学部:個別の指導計画及び学習内容引き継ぎをもとに年間指導計画を修正しながら作成するとともに、単元指導計画をもとに、グループ内で意見を出し合い授業の質を高める。また、児童の障がい・特性に応じた指導の充実を図り、教師の専門性を高めるようにする。 中学部:個々のニーズに応じた個別の教育支援計画と合理的配慮の観点に基づいた個別の指導計画及び学習計画を作成し、授業改善や取り組みの過程を大切にし、学ぶ意欲や自己肯定感を高められるように、個に応じたきめ細やかな日々の授業実践を行う。 高等部:年間指導計画と個別の指導計画、日々の授業のつながりを整理し、教師間で連携を図って指導に当たるとともに、児童生徒課や進路指導課と連携した性に関する指導や挨拶、言葉遣い等の指導、障がい・受容や進路実現、ストレスへの対応に関する学習等を実行する。 | B B A | B B | ・引き続き年間指導計画の修正を行い指導の見直しをもつ。単元指導計画を基に、授業の質を高める。(小) ・教師の専門性を高められるように学部会やグループ会で指導についての共通理解を図る。(小) ・個別の教育支援計画や学習計画を学年や担任で検討作成し、生徒一人一人の支援や配慮の共通理解を行う。(中) ・向上心やチャレンジ精神を高められる年間目標や学期目標を設定し、生徒の課題に基づく授業改善に取り組む。(中) ・年間指導計画の整理を行うとともに、教科の視点をもった作業学習や生活単元学習の実施に努める。(高) ・実施に応じた性に関する指導や進路学習を継続する。また、ストレスへの対応に関する学習を充実させ、生徒が安心感のある学校生活を営むための環境づくり(いじめ防止、日常生活、教師の言動等)を行う。(高) ・危機管理意識を高くもち、児童が怪我や不安な過ごせるように安全・安心して学べる環境を整える。(小) ・様々な問題に対応するために保護者や関係機関との連携を更に強める。(小) ・発作や他害行為を行う生徒について、関係機関や養護教諭などとの連携を密にする。(中) ・登校が難しい生徒について、保護者とのつながりを保ち、スクールカウンセラーや関係機関等と連携し、適切な支援の工夫を行う。(中) ・様々な場面を想定した緊急時シミュレーション(出血や転倒、頭部打撲等)や生徒の安全教育を充実させる。(高) ・家庭及び外部機関と連携したケース会議や各課と連携した共感的な生徒指導、適切な情報提供を行う進路指導を継続する。(高) | |
| | ・ヒヤリハット事例の情報共有、あらゆる状況を想定したシミュレーションの実施、迅速な「報告・連絡・相談」による危機管理意識の向上 ・部門内の連携強化、家庭との連携、関係機関との連携、共感的な生徒指導によるいじめや問題行動の未然防止、早期対応 ・保護者のニーズに応える積極的な情報発信と、発信文書に対する責任感の高揚 | 小学部:緊急時対応シミュレーションを定期的実施し、教師間の対応を確認するとともに、危機管理意識を高くもち、児童が安全・安心に学ぶことができるようにする。また、教育方針等の保護者への説明責任を果たし、関係機関との連携を深めて子どもへの教育に生かす。 中学部:生徒の健康管理、事故防止に努めるとともに、常に危機意識をもち、安心・安全な教育活動の充実を目指す体制づくりを行い、ヒヤリハット事例を共有して危機意識を高め、保護者対応シミュレーション訓練による危機管理意識の向上を図る。 高等部:様々な場面を想定した緊急時シミュレーションや家庭・外部機関と連携したケース会議の実施、各課と連携した共感的な生徒指導や適切な情報提供を行う進路指導に努め、生徒や保護者の願いに迅速に対応する。また、学部の取組に関する積極的な情報発信に努める。 | 小学部:緊急時対応シミュレーションを定期的実施し、教師間の対応を確認するとともに、危機管理意識を高くもち、児童が安全・安心に学ぶことができるようにする。また、教育方針等の保護者への説明責任を果たし、関係機関との連携を深めて子どもへの教育に生かす。 中学部:生徒の健康管理、事故防止に努めるとともに、常に危機意識をもち、安心・安全な教育活動の充実を目指す体制づくりを行い、ヒヤリハット事例を共有して危機意識を高め、保護者対応シミュレーション訓練による危機管理意識の向上を図る。 高等部:様々な場面を想定した緊急時シミュレーションや家庭・外部機関と連携したケース会議の実施、各課と連携した共感的な生徒指導や適切な情報提供を行う進路指導に努め、生徒や保護者の願いに迅速に対応する。また、学部の取組に関する積極的な情報発信に努める。 | A A B | A A | ・引き続き年間指導計画の修正を行い指導の見直しをもつ。単元指導計画を基に、授業の質を高める。(小) ・教師の専門性を高められるように学部会やグループ会で指導についての共通理解を図る。(小) ・個別の教育支援計画や学習計画を学年や担任で検討作成し、生徒一人一人の支援や配慮の共通理解を行う。(中) ・向上心やチャレンジ精神を高められる年間目標や学期目標を設定し、生徒の課題に基づく授業改善に取り組む。(中) ・年間指導計画の整理を行うとともに、教科の視点をもった作業学習や生活単元学習の実施に努める。(高) ・実施に応じた性に関する指導や進路学習を継続する。また、ストレスへの対応に関する学習を充実させ、生徒が安心感のある学校生活を営むための環境づくり(いじめ防止、日常生活、教師の言動等)を行う。(高) ・危機管理意識を高くもち、児童が怪我や不安な過ごせるように安全・安心して学べる環境を整える。(小) ・様々な問題に対応するために保護者や関係機関との連携を更に強める。(小) ・発作や他害行為を行う生徒について、関係機関や養護教諭などとの連携を密にする。(中) ・登校が難しい生徒について、保護者とのつながりを保ち、スクールカウンセラーや関係機関等と連携し、適切な支援の工夫を行う。(中) ・様々な場面を想定した緊急時シミュレーション(出血や転倒、頭部打撲等)や生徒の安全教育を充実させる。(高) ・家庭及び外部機関と連携したケース会議や各課と連携した共感的な生徒指導、適切な情報提供を行う進路指導を継続する。(高) |
| | ・専門性向上のための研修実施と自己研鑽の推奨 ・PDCAサイクルに基づく授業づくりの実施 | 小学部:専門性を高め指導力の向上に努めるとともに、障がい・特性に応じた目標や内容を設定し、目標や意図を明確にした授業づくりや指導に努める。また、児童のニーズに応じた教材・教具の工夫を行ったり、AAC機器等を有効に活用したりしながら指導の充実を図る。 中学部:新学習指導要領の理解を図るとともに、複数による学習計画の検討・評価・見直し、実績の蓄積を日常的に行うことで、生徒の実態やねらいに沿った授業づくりや授業改善を推進する。ニーズに応じた研修を他学部と連携して実施する。 高等部:チームによる個別の指導計画の作成・実施・評価及び「鍛ほめメソッド」を取り入れた指導に取り組み、日々の学習の充実を図るとともに、職員の専門性の向上を図る。 | 小学部:専門性を高め指導力の向上に努めるとともに、障がい・特性に応じた目標や内容を設定し、目標や意図を明確にした授業づくりや指導に努める。また、児童のニーズに応じた教材・教具の工夫を行ったり、AAC機器等を有効に活用したりしながら指導の充実を図る。 中学部:新学習指導要領の理解を図るとともに、複数による学習計画の検討・評価・見直し、実績の蓄積を日常的に行うことで、生徒の実態やねらいに沿った授業づくりや授業改善を推進する。ニーズに応じた研修を他学部と連携して実施する。 高等部:チームによる個別の指導計画の作成・実施・評価及び「鍛ほめメソッド」を取り入れた指導に取り組み、日々の学習の充実を図るとともに、職員の専門性の向上を図る。 | A B B | A B | ・授業改善を行い、さらなる教育環境の整備と充実を図る。(小学部) ・小学部、高等部卒業を見据えて、小学部段階から卒業後の姿を意識した学習指導を行う。(小学部) ・保護者や関係機関との関係づくりに努め、連携・協働して教育活動を進めることができるようにする。(小学部) ・目標や指導内容を明確にした質の高い授業づくり、共通理解に基づいた教師間の連携に努める。(中学部) ・見直しをもつために計画を立てて検討したりする。日常的に生徒の習得状況や授業の評価を行い、小さな改善を積み重ねる。(中学部) ・小学部までに経験した身に付けたことをベースに、卒業後を見通した学習指導や進路指導を行う。(中学部) ・学部行事や日々の学習における個々のねらいや配慮事項を職員間で共通理解するための時間を確保するとともに、実施後の反省・改善を確実に行う。(高等部) ・行事の見直し・精選を行い、生徒が見通しをもち安心して学習できる環境作りを努める。(高等部) ・緊急時対応シミュレーション(訓練)は学期に一度実施する。また学部通信発行と同時にホームページ更新を行い、情報発信に努める。(高等部) |
| | ・安心安全に児童生徒が生活できる環境の整備 ・ホームページや通信等を通じた積極的な情報発信の実施 | 小学部:児童が安全・安心・安定できる学習環境と教育活動の確立を目指し、複数の目で児童の指導に当たり、怪我・事故等の予防に努める。また、保護者や医療・福祉・行政など、児童に関わる人や関係機関と連携・協働して教育活動を進める。 中学部:安心・安全な教育活動が行えるように、学部内での協力体制を整えるとともに、管理職や看護職員、養護教諭、関係機関との連携・協働を推進する。進路情報など、保護者のニーズに沿った情報を積極的に発信する。 高等部:生徒が安心・安全に学習できるように、危機管理体制の充実及び基礎的環境の整備に努めるとともに、保護者や地域の信頼を得るため、積極的な情報発信及び保護者への丁寧な説明に努める。 | 小学部:児童が安全・安心・安定できる学習環境と教育活動の確立を目指し、複数の目で児童の指導に当たり、怪我・事故等の予防に努める。また、保護者や医療・福祉・行政など、児童に関わる人や関係機関と連携・協働して教育活動を進める。 中学部:安心・安全な教育活動が行えるように、学部内での協力体制を整えるとともに、管理職や看護職員、養護教諭、関係機関との連携・協働を推進する。進路情報など、保護者のニーズに沿った情報を積極的に発信する。 高等部:生徒が安心・安全に学習できるように、危機管理体制の充実及び基礎的環境の整備に努めるとともに、保護者や地域の信頼を得るため、積極的な情報発信及び保護者への丁寧な説明に努める。 | A A A | A A | ・安心安全に児童生徒が生活できる環境の整備 ・ホームページや通信等を通じた積極的な情報発信の実施 |